会

(背表紙)

(表紙)

経済産業省委託調査

平成 14 年度 市場構造改革に伴う業務・システムの 企業間統合基盤整備

電子取引実証モデル利用マニュアル 第3部 ebMail 導入ガイド

平成16年3月



電子商取引推進協議会 財団法人日本情報処理開発協会電子商取引推進センター

この報告書は、平成14年度補正受託事業として(財)日本情報処理開発協会電子商取引推進 センターが経済産業省から委託を受けて、電子商取引推進協議会(ECOM)の協力を得て実施し た「市場構造改革に伴う業務・システムの企業間統合基盤整備」の成果です。

はじめに

日本の電子商取引(Electronic Commerce、EC)は、1990年代後半から登場し、年平均成長率 50%で拡大しており(1998年~2002年) その市場規模は 2002年には、企業間電子商取引(B2B)で3兆円に達している。このような電子商取引の広がりを一層推進するためには、日本企業の99%以上を占める中小企業の電子商取引の一層の導入が不可欠である。

しかし、現状は、その必要性を認めながらも、中小企業への普及・浸透は鈍い。その理由は多々あるが、環境整備に関わる要因の一つとして、「高い導入費・運用費」が挙げられる。つまり、電子商取引が可能になる安価なパッケージが提供されれば、中小企業の電子商取引への参加が促進され、ひいては企業間電子取引の普及が促されることが予想される。

(財)日本情報処理開発協会では経済産業省の委託(平成14年度補正「市場構造改革に伴う業務・システムの企業間統合基盤整備」)を受けて、8つの業務プロセス標準化プロジェクトを担当しており、それらプロジェクトの情報モデリング作業を標準的手法に基づき推進・実装するにあたって、共通に使用され得る ebXML オープンソース「eb Mail」を調査、必要な機能を追加し、そのパッケージを一般公開可能な形で提供する予定である。本書はその導入、利用においてのガイドであり、このようなパッケージを企業、特に電子商取引に積極的な中小企業が導入することにより、国際標準実装の簡易化を取り入れるとともに、国内産業界で広く利用されることにより、ビジネス情報の標準化が促進されることを期待し、出版するものである。

平成16年3月

財団法人日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター 電子商取引推進協議会

目 次

1. ebMail 実装カイド	
1.1 概 要	1
1.2 ebMail 実装	
1.2.1 必要なソフトウェア	1
1.2.2 ソフトウェアおよび関連ドキュメントのダウンロート	\$ 1
1.2.3 セットアップの前提条件	2
1.2.4 J2SDK へのバッチの適用	
1.2.5 インストール	2
2. ebMail 利用ガイド	3
2.1 概 要	3
2.2 起動方法	3
2.3 初期設定	4
2.4 ebMail 画面および機能の説明	4
2.4.1 ebMail 起動画面	4
2.4.2 フォルダ	5
2.4.3 メッセージ受信処理	5
2.4.4 新規メッセージ送信	6
2.4.5 メッセージ受信	8
2.4.6 ebMail 環境設定	9
2.4.7 アドレス帳への登録	12
2.4.8 プラグインのインポート	13
2.4.9 メールソー H機能	15
2.4.10 表示項目選択	15
2.4.11 ヘルプ機能	16
2.5 プラグインの説明	18
2.5.1 プラグインの構成	18
2.5.2 プラグイン開発の流れ	19
2.5.3 plugin.xml の説明	20
2.5.4 ebMail の通信モード	21
2.5.5 プラグインの作業範囲	21

2.5.6 プラグインが作成するsoap ヘッダー	22
2.5.7 その他	24
2.5.8 プラグインの例	24
2.6 サンプルプラグインの説明	25
2.6.1 サンプルプラグインのモデル	3
2.6.2 扱データ	3
2.6.3 サンプルプラグイン実装環境	3
2.6.4 サンプルプラグイン仕様説明	
2.6.5 補足説明	
2.6.6 サンプルプラグインまとめ	
2.7 今後の ebMail を利用した B2B 概念図	36
付録	37

1 . ebMail 実装ガイド

1.1.概要

本資料では、CECID (Center for E-Commerce Infrastructure Development) が 提供する ebMail のセットアップ手順を説明する。

また、ebMailに関する情報は、http://www.freebxml.orgより閲覧可能である。

1.2.ebMail 実装

1.2.1. 必要なソフトウェア

以下の2つのソフトウェア(プログラム)が必要。

- ebMail
- Java(TM) 2 SDK, Standard Edition Version 1.4.2

1.2.2.ソフトウェアおよび関連ドキュメントのダウンロード

ebMail関連のダウンロードは、

http://www.freebxml.org/ebmaildownload_100.htm
からダウンロードする。
これに含まれるソフトウェアおよび関連ドキュメントは以下のとおり。

ebMail インストーラ (ebmail_install_win32.zip)
ebMail のインストーラ。

セットアップガイド (ebmail_setup_guide.zip) セットアップ方法が記載されているドキュメント。

プラグイン 開発ガイド (ebmail_plugin_develop_guide.zip) プラグインを開発するための説明が記載されているドキュメント。

プラグイン 開発チュートリアル (ebmail_plugin_tutorial.zip) プラグインのサンプルの説明が記載されているドキュメント。

ソースコード (ebmail_src_dist.zip) ebMail およびサンプルプラグインのソースコード。

バイナリ (ebmail_binary_dist.zip) ebMail のバイナリモジュール。

1.2.3.セットアップの前提条件

ebMail をセットアップする前提として、Java(TM) 2 SDK, Standard Edition Version 1.4.0以上がインストールされている必要がある。
J2SDK インストール後に下記を環境変数に設定は必ず行う。

- \$JAVA_HOME を環境変数に設定する。
- \$JAVA_HOME/bin を環境変数の PATH に設定する。
 PATH の先頭に付加できれば、一番確実である。

1.2.4.J2SDK へのパッチ適用

J2SDK 1.4.x には、XML ライブラリの XALAN がバンドルされている。ただし、 バンドルされている XALAN は最新のバージョンではないため、このプロジェクトで 使用する XML セキュリティライブラリでは正常に動作しない。

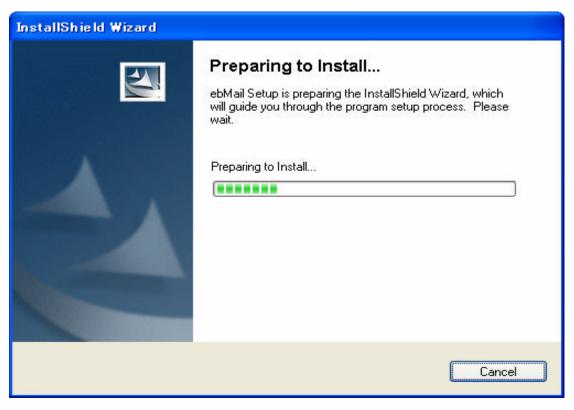
よって、J2SDK バージョン 1.4.x を使用する場合は、J2SDK に正しいバージョン の XALAN のパッチを適用するために、下記の作業を実施する必要がある。

- 前述の3.の ebmail src dist.zip を自身のハードディスクに展開する。
- \$JAVA_HOME/jre/lib/endorsed を作成する。
- xalan.jar ファイルを ebmail/runlib ディレクトリから作成したディレクト リにコピーする。

1.2.5.インストール

1 . 2 . 2 . でダウンロードした ebmail_install_win32.zip を自身のハードディスクに展開する。

展開すると、ファイルの中に、setup.exeがあるので、これを実行する。 後は、インストーラに従って実施していく。



以上で、ebMail のセットアップは完了である。

2 . ebMail 利用ガイド

2.1.概要

本資料では、CECID (Center for E-Commerce Infrastructure Development)が 提供する ebMail の機能、操作方法、プラグイン作成について説明をする。 特にプラグインについては、ITベンダーが作成し、ユーザに提供できるようサン プルプラグインを用いた説明となっている。

インストールについては、終了しているものとする。

また、ebMailに関する情報は、http://www.freebxml.orgより閲覧可能である。

2.2.起動方法

起動については、下記の3種類が存在する。

・スタートメニュー (すべての)プログラム ebMail

- ・デスクトップの ebMail アイコンをダブルクリック
- ・C:\Program Files\CECID\ebMail\run.bat を実行

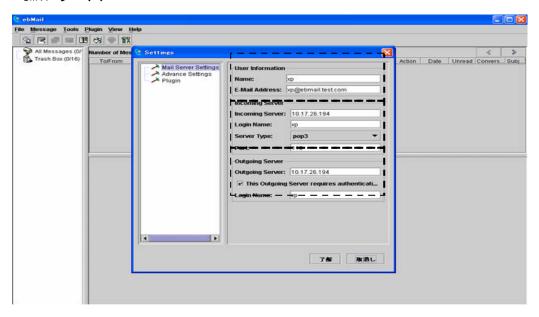
2.3.初期設定

プルダウンメニュー - > Tools - > Setting にて、下記の設定をする。

ユーザ情報

POPサーバ

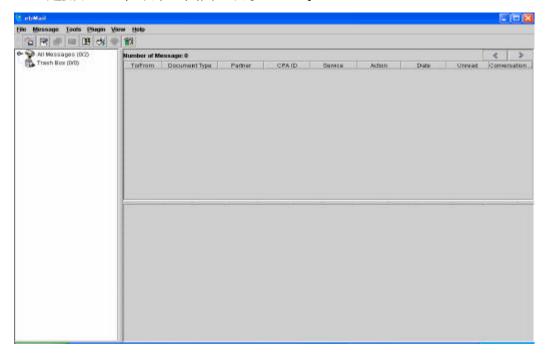
SMTP サーバ



2.4.ebMail 画面および機能説明

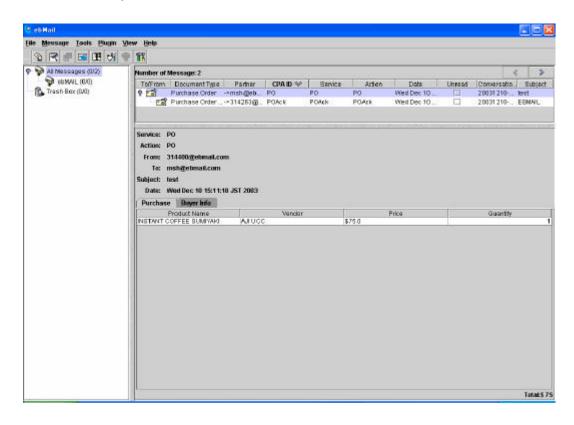
2.4.1.ebMail起動画面

ebMailを起動すると、以下の画面が表示される。



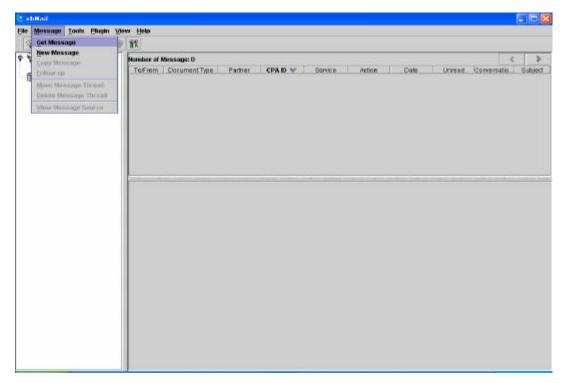
2.4.2.フォルダ

送信・受信したメールが表示される。ALL Messageフォルダの下にフォルダを追加可能である。



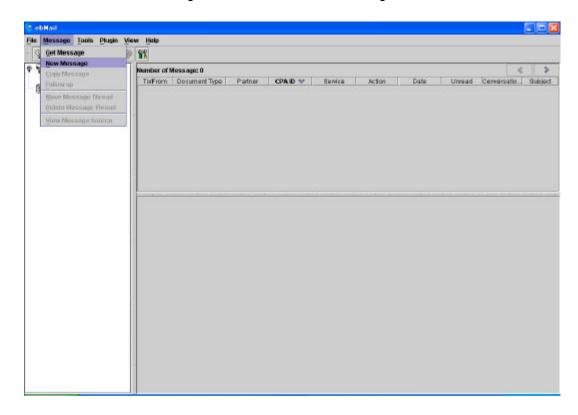
2.4.3.メッセージ受信処理

ツールバーの「Message」から「Get Message」を選択する。

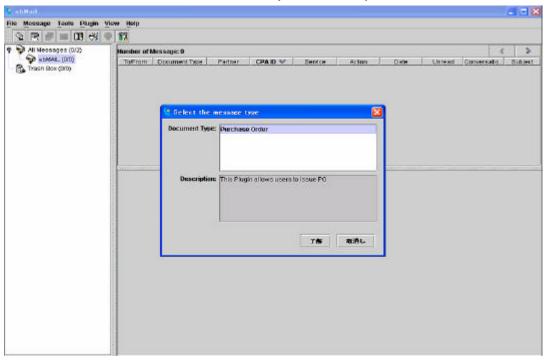


2.4.4.新規メッセージ送信

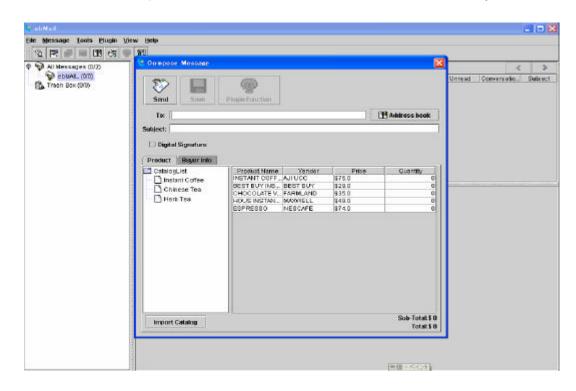
ツールバーの「Message」を選択し、「New Message」を選択する。



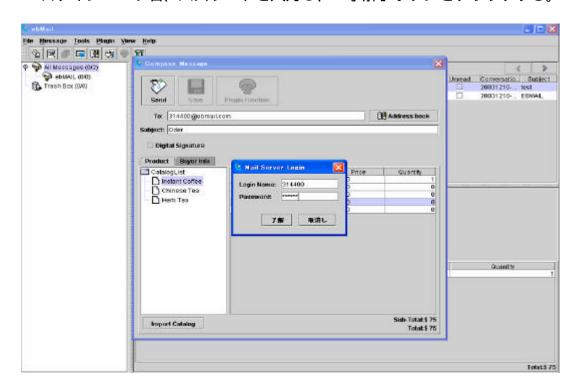
インポートするドキュメントタイプ (プラグイン)を選択する。



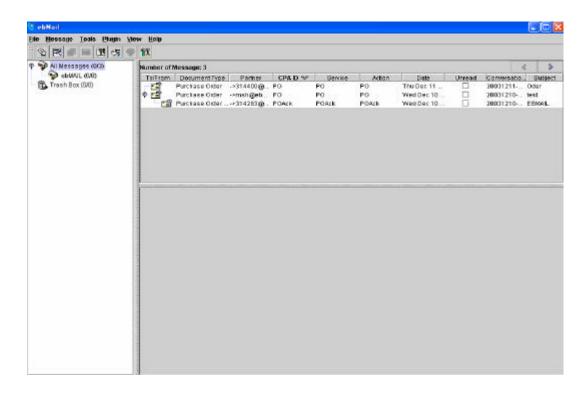
送信画面が表示される。この送信画面は、プラグインの仕様により、異なる。 宛先のアドレス、件名を入力して「Send」ボタンをクリックする。



サーバへログインするための認証画面が表示される。 ログインユーザ名、パスワードを入力し、「了解」ボタンをクリックする。

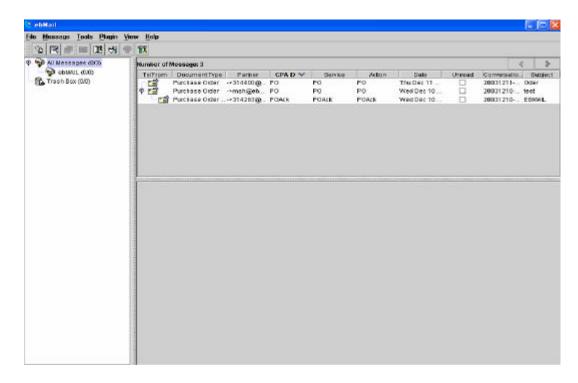


メッセージが送信されると、メッセージフォルダに履歴として表示される。



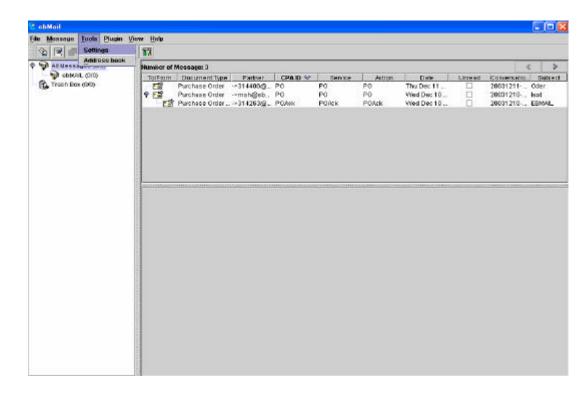
2.4.5.メッセージ受信

ツールバーの「Message」を選択し、「Get Message」を選択する。

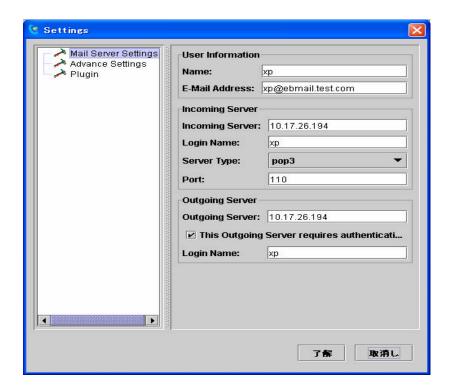


2.4.6 .ebMail環境設定

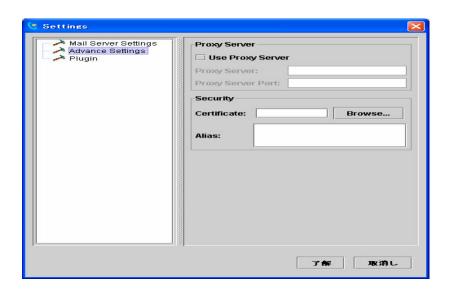
ツールバーの「Tools」から「Settings」を選択する。



接続するメールサーバの環境を設定する。 設定内容は、ユーザ情報(ログインユーザ名、メールアドレス)、 POP3サーバ、SMTPサーバの情報。



ebMAILはオプション機能として、プロキシサーバ設定や電子署名の設定を することが可能である。



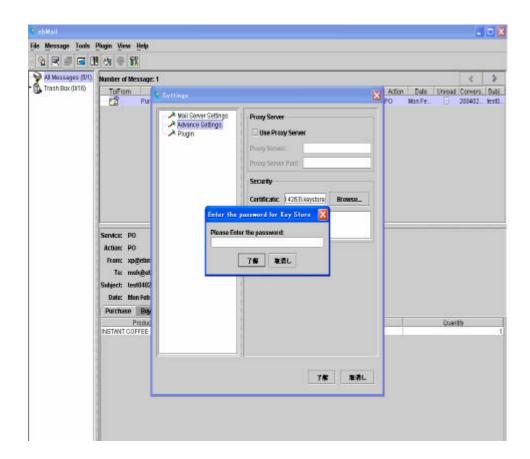
参考 < ebMail における電子署名の使用方法 >

今回は、J2SDK に付属している keytool コマンドにて、公開鍵と秘密鍵を作成。

・%JAVA_HOME%Hoin\keytool -genkey -alias ebmailcl -keyalg DSAを実行。

C:\psi keytool -genkey -alias ebmailcl -keyalg DSA キーストアのパスワードを入力してください: changeit 姓名を入力してください。 [Unknown]: yamada 組織単位名を入力してください。 [Unknown]: kaisha 組織名を入力してください。 [Unknown]: it 都市名または地域名を入力してください。 [Unknown]: tokyo 州名または地方名を入力してください。 [Unknown]: sumida この単位に該当する 2 文字の国番号を入力してください。 [Unknown]: JP CN=yamada, OU=kaisha, O=it, L=tokyo, ST=sumida, C=JP でよろしいですか? [no]: yes <ebmailcl> の鍵パスワードを入力してください。 (キーストアのパスワードと同じ場合は RETURN を押してください): C:¥>

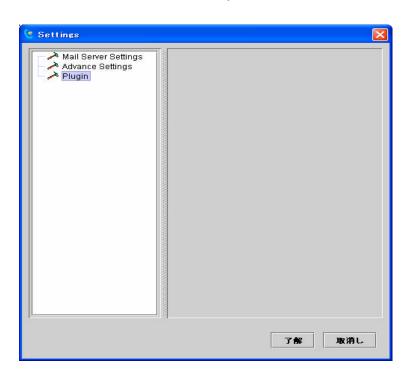
- ・ホームディレクトリに.keystoreファイルが作成。
- ・ebMail のメニュー「Tools->Settings」を選択。
- ・一覧から「Advance Settings」を選択。
- ・「browse」ボタンを押下し、先ほど作成した.keystoreファイルを選択。
- ・「パスワード入力」ダイアログが表示されるので、キーストアのパスワードを入力。



- ・「Alias」リストに keytool の alias に指定した「ebmailcl」が表示。
- ・「Tomcat」を選択状態にし、「Settings」画面の「了解」ボタンを押下して 終了。
- ・メールを送信する時に、「Digital Signature」をオンにすれば、証明書付で送信。

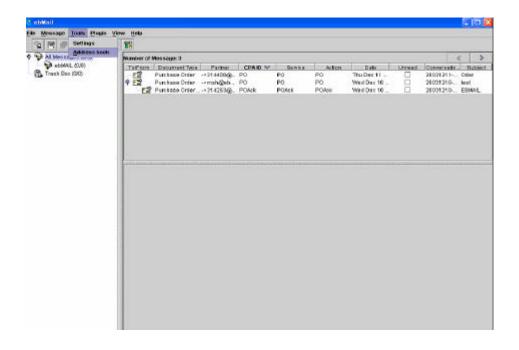
今回は、アルゴリズムは DSA を採用している (Hermes MSH が DSA のみ対応しているため)。また、ebMailは、受信時は特に証明書認証のロジックは持っていない。

プラグインの独自の設定が必要な場合は、この画面から行う。 また、そのようにプラグインを作成する必要がある。

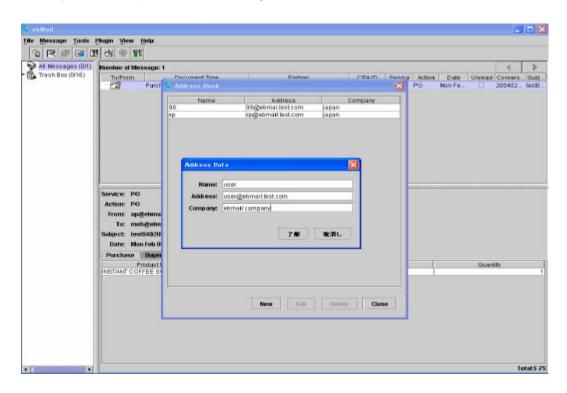


2.4.7.アドレス帳への登録

ツールバーの「Tools」から「Address book」を選択する。

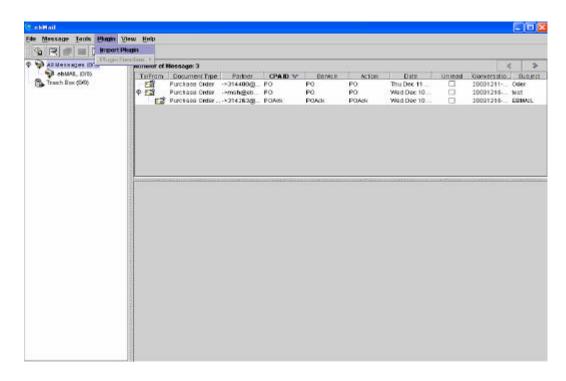


名前、アドレス、会社を設定する。

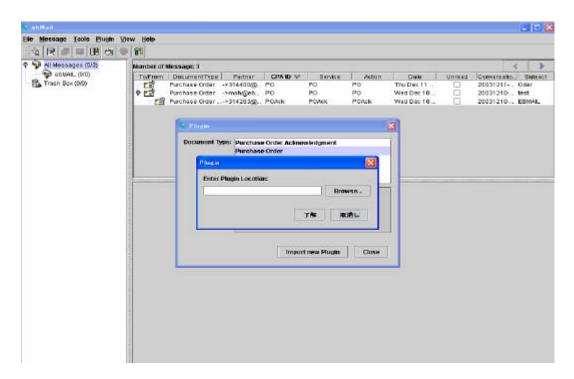


2.4.8.プラグインのインポート

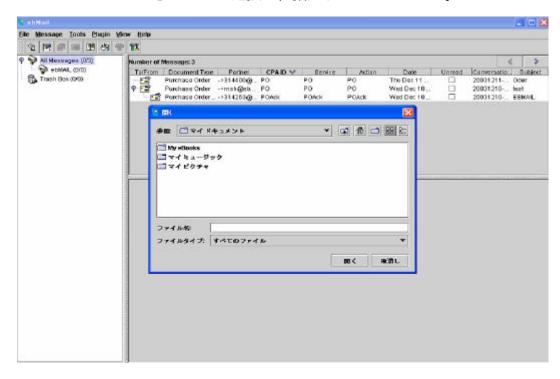
ebMailを使用するには、まずプラグインをインポートすることが必要である。ツールバーの「Plugin」より「Import Plugin」を選択する。



プラグインの場所 (ディレクトリ)を指定する。

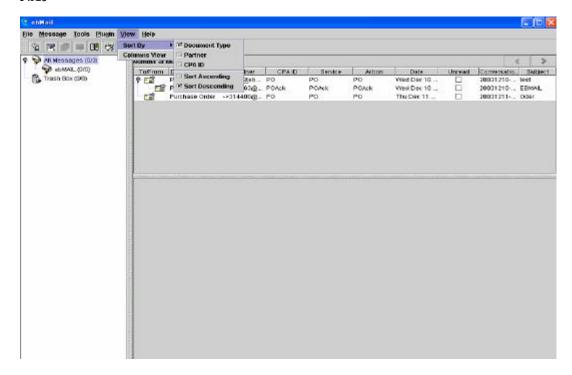


あるいは「Brouse」ボタンを選択し、指定することができる。



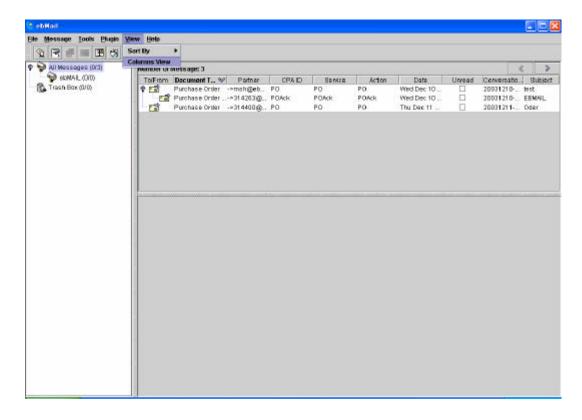
2.4.9.メールソート機能

メールを、CPA-ID、Service、Actionなどの項目別に、昇順・降順に並べ替え可能。



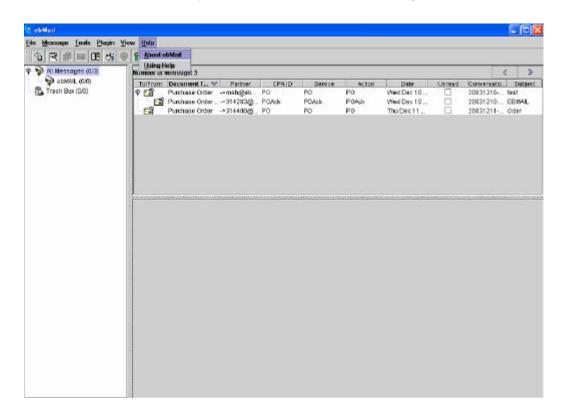
2.4.10.表示項目選択

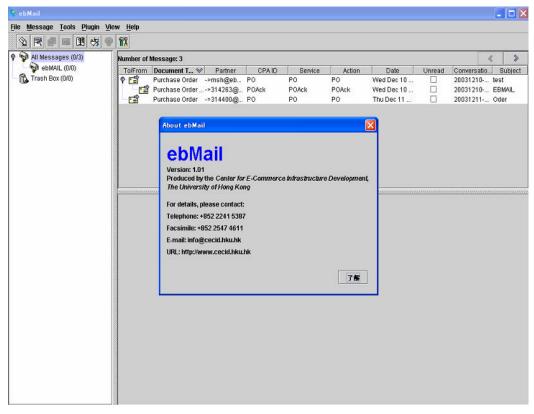
表示項目を選択可能。(以下の画面は全項目表示)



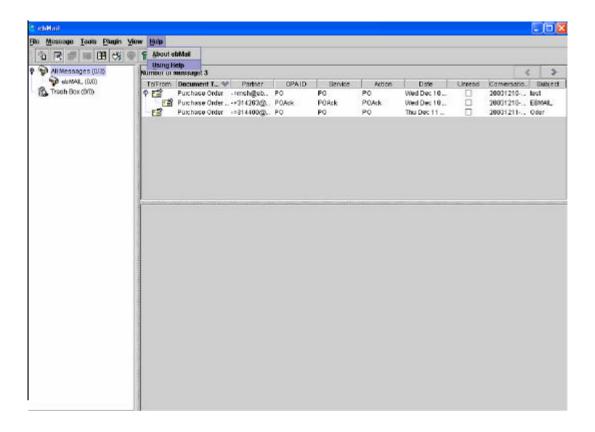
2.4.11.ヘルプ機能

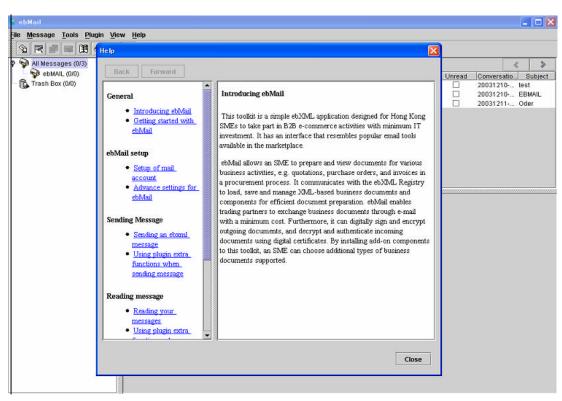
ebMailのバージョンや、問合わせ先情報が表示される。





HELPドキュメントが表示される。設定方法等が記述されている。





2.5.プラグインの説明

2.5.1. プラグインの構成

plugin.xml

プラグインの設定と構成のファイル。ebMailは、このファイルを読込みプラグインの内容を理解する。

UIクラス

ユーザがビジネス文書を参照、作成、変更する時に使用するユーザ・イン ターフェース。

Dataクラス

ビジネスモデルのデータモデルを定義する。UIから入力されたデータをXML に編集する機能。

DocumentHandlerクラス

UIとデータをリンクさせる機能。

その他のクラス

オプション。ローカライズに必要な素材やアイコン、プラグイン設定等。

	コマコン・ポーウン・レ	
	コアコンポーネント Plugin.xml	
VI	DATA	DocumentHandller
	オプ ションコンポ ーネント	

2.5.2. プラグイン開発の流れ

メッセージの設計

プラグインを使用したメッセージ形式の設計をする必要がある。

例)発注情報 受注確認 受注拒否

<order> <orderack> <orderack>

<pencil amount="4"> </orderack> </orderack>

</items>

<address>東京都中央区</address>

</order>

ユーザインターフェースの設計

プラグインのユーザインターフェースを設計する。

ebMailに出現させるGUIを作成する。

データクラスの設計

画面から入力されたデータをebXML Messageへ変換処理する、またはその逆の機能を作成する。

データハンドラクラス

新規、参照、返信のアクションがあった場合のコントローラの選択 をする。

コントローラクラスの設計

2で作成したユーザインターフェースのラッパークラスである。 新規、参照、返信のアクションがあった場合のUIの選択をする。

その他のクラス

ローカライズに必要な機能を作成する。

上記の2~6をjarファイルとして作成する。

ebMailにプラグインとしてインポートする。

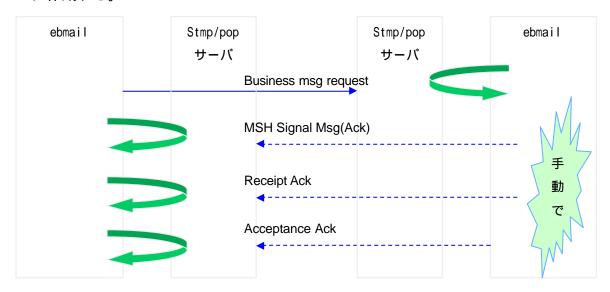
2.5.3. plugin.xmlの説明

```
<?xml version="1.0"?>
<Plugin id="sample" version="1.0">・・・・・・・・・プラグイン毎の固有のID
 <Name>
 Sample Plugin
                         ・・・・・・・・・・・・プラグインの名前
 </Name>
 <Description>
 Sample plugin for buying pencil.・・・・・・・・・プラグイン説明
 </Description>
 <EbmailDocuments>
   <Document>
    <Name>Pencil Order</Name> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ドキュメントの名前: Purchese Orderなど
   <Description> Sample Pencil Order form </Description> ・・・ドキュメントの説明
    <DataClass>
    jp.co.kaoinfo.OrderPane.data.OrderDocumentData
                                             ・・・データクラスの指定
    </DataClass>
    <HandlerClass>
    jp.co.kaoinfo.OrderPane.handler.OrderDocumentHandler ・・・データハンドラクラスの指定
    </HandlerClass>
    <HandlesEbxmlMessages>
     <MessageHeader>
       <CPAId>http://www.pencilsupplier.com</CPAId> ・・・CPAの設定、CPA_ID、Service、Action
       <Service>pencil order
       <Action>order</Action>
     </MessageHeader>
    </HandlesEbxmlMessages>
                         ・・・・・・・・・・・・・・ebMailのプルダウンメニューの有効にする項目
    <SupportsEmailActions>
     <New/>
                                                  < New/>新規メール
     <NewFrom/>
                                                  <NewFrom/>到着しているメールの複製で新規メール
     <FollowUp/>
                                                  <FollowUp/>到着しているメールに対する返信
   </SupportsEmailActions>
    <Settings>
                         ・・・・・・・・・・・・プラグイン固有の設定がある場合に仕様
   </Settings>
  </Document>
</EbmailDocuments>
<Properties>
                         ・・・・・・・・・・・・・ebMailに渡す必要のあるプロパティがある場合に使用
</Properties>
</Plugin>
```

2.5.4. ebMailの通信モード

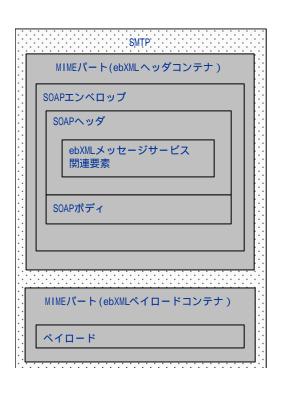
ebMail は、「SMTP プロトコルによる」、「非同期モード」かつ「Best Effort」の ebXML 通信である。

下記のようなネゴシエーションを行う場合、 ~ の4種類の機能をプラグインに作成する。



2.5.5. プラグインの作業範囲

データのパッケージングにおいては、下記の水色の部分はプラグインで行う。 ebMailは、SMTPプロトコルの情報を付加し、送信する。



ebMái l**が実装する部分**

プラグインが実装する部分

2.5.6. プラグインが作成するSoapへッダー

CECID が提供するサンプルプラグインが作成する Soap ヘッダーをここに記載する。

```
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"</pre>
 xmIns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
 xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
 xsi:schemaLocation="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/
http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/envelope.xsd">
  <soap-env:Header
xsi:schemaLocation="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2
_0.xsd
http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2_0.xsd">
    <eb: MessageHeader
xmlns:eb="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2_0.xsd"
     eb:version="2.0"
     soap-env:mustUnderstand="1">
      <eb:From>
        <eb:PartyId>
          mailto:xp@ebmail.test.com
        </eb:PartyId>
      </eb:From>
      <eb:To>
        <eb:PartyId>
          mailto:msh@ebmail.test.com
        </eb:PartyId>
      </eb:To>
      <eb:CPAId>
        P0
      </eb:CPAld>
      <eb:ConversationId>
        20040209-031654971-P0.P0.P0.1@10.17.26.194
      </eb:ConversationId>
```

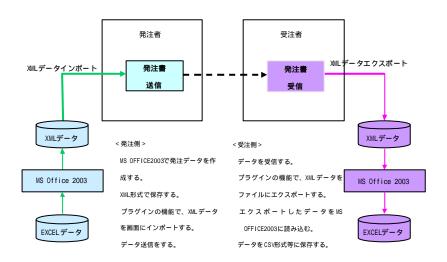
```
<eb:Service>
        P0
      </eb:Service>
      <eb:Action>
        P0
      </eb:Action>
      <eb: MessageData>
        <eb: Message Id>
          20040209-031654971-P0.P0.P0.1@10.17.26.194
        </eb:MessageId>
        <eb:Timestamp>
          2004-02-09T03:16:55
        </eb:Timestamp>
      </eb:MessageData>
<eb:Description xml:lang="en-US">
        test040209
      </eb:Description>
    </eb:MessageHeader>
  </soap-env:Header>
  <soap -env:Body</pre>
xsi:schemaLocation="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2
0.xsd
http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2_0.xsd">
    <eb:Manifest
xmlns:eb="http://www.oasis-open.org/committees/ebxml-msg/schema/msg-header-2_0.xsd"
     eb:version="2.0">
     <eb:Reference eb:id="0" xlink:type="simple" xlink:href="cid:0">
        <eb:Description xml:lang="en-US">
          description
        </eb:Description>
      </eb:Reference>
    </eb:Manifest>
  </soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>
```

2.5.7. その他

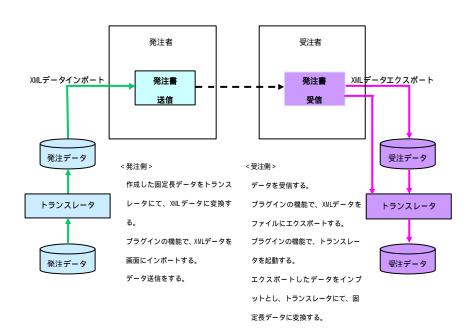
- ・ plugin.xmlでは、プラグインが扱うドキュメントの定義がされている。 ebMailが起動された時に、plugin.xmlが読み込まれ、扱えるドキュメントが 決定する。
- ・ plugin.xmlに記述されていないドキュメントは、送信できない。
- plugin.xmlに記述されているDocumentoName、CPAID、Service、Action以 外のドキュメントを受信した場合は、エラーとなり、参照できない。

2.5.8. プラグインの例

例1:

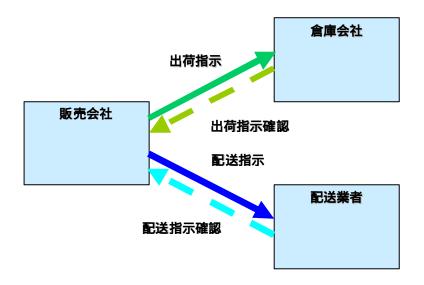


例2:



2.6.サンプルプラグイン説明

2.6.1. サンプルプラグインのモデル



2.6.2.扱うデータ

出荷指示データ (shipmentDirection.xml)

```
<shipmentDirection accept="false" orderDate="Wed Feb 18 14:07:40 JST 2004">
 <data>
   ABC容器工業(株),20040301-9117-00
   20040301190453,
   DEF産業株式会社,
   KKK株式会社,
   千葉工場/HIJグループ,
   千葉市 中央区 一丁目,
   00222-20002-0797,
   ショク オープン,
   LCLGTS,
   130,
   03/30,昼一番
   取り扱い注意,
   新規です。,
   042-99-9999,
 </data>
</shipmentDirection>
```

出荷指示確認データ (shipmentDirectionAck.xml)

A . 出荷可能

```
<shipmentDirection accept="true" orderDate="Wed Feb 18 14:09:09 JST 2004">
</shipmentDirection>
```

B. 出荷不可能

```
<shipmentDirection accept= "false" orderDate="Wed Feb 18 14:09:09 JST 2004">
</shipmentDirection>
```

配送指示データ (deliveryDirection.xml)

```
<deliveryDirection accept="false" orderDate="Wed Feb 18 14:07:40 JST 2004">
   ABC容器工業(株),20040301-9117-00
  20040301193803,
   DEF產業株式会社,
   KKK株式会社,
   千葉工場/HIJグループ,
   千葉市 中央区 一丁目,
  00222-20002-0797,
  ショク オープン,
   LCLGTS,
  130,
  03/30,昼一番
   (有) K L M 物流
  03/30
   取り扱い注意,
   042-99-9999.
 </data>
</deliveryDirection>
```

配送指示確認データ (deliveryDirectionAck.xml)

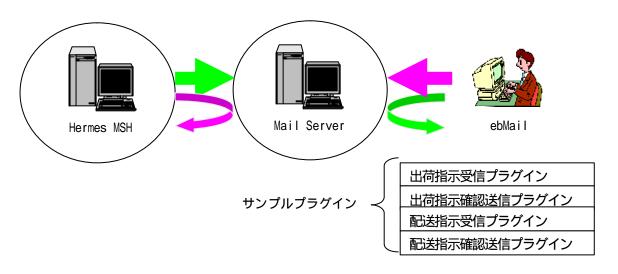
A.配送可能

<deriveryDirection accept="true" orderDate="Wed Feb 18 14:09:09 JST 2004">
</deliveryDirection>

B. 配送不可能

<deliveryDirection accept= "false" orderDate="Wed Feb 18 14:09:09 JST 2004">
</deliveryDirection>

2.6.3. サンプルプラグイン実装環境



参考

ebMail ソフトウェア

OS:

- Windows XP Professional, Windows 98

その他:

- Java(TM) 2 SDK, Standard Edition V1.4.2

Hermes MSH ソフトウェア

OS:

- Windows XP Professional

その他:

- Java(TM) 2 SDK, Standard Edition V1.4.2
- jakarta-tomcat V4.0.4(アプリケーションサーバ)

- Jakarta Ant V1.5.4 (プラグイン開発時のソースコードビルド用)
- HSQLDB V1.7.1(データベース)

Mail Server ソフトウェア

OS:

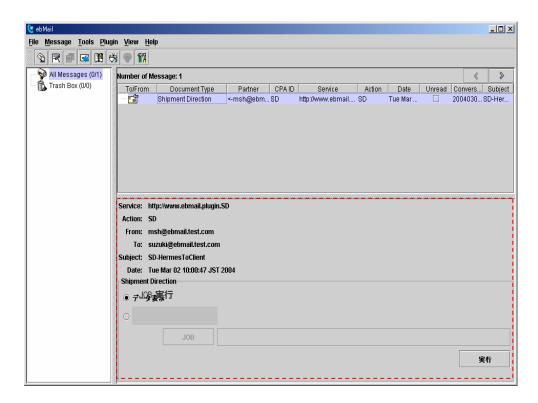
- Windows XP Professional
- ArGoSoft Mail Server FreeWare V1.8.4.5

2.6.4. サンプルプラグイン仕様説明

2.6.4.1.出荷(配送)指示データ受信画面

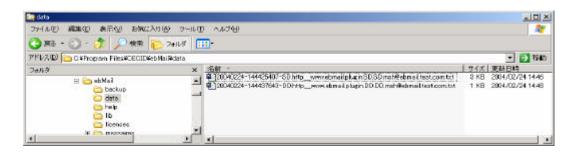
受信した出荷(配送)指示データを表示する。

また、データエクスポート、データ表示、JOB起動が可能である。



データエクスポート

・出荷(配送)指示データが受信され、メッセージフォルダーに表示される。 表示されたメッセージをクリック(選択)した瞬間、ebMailインストール フォルダー¥data¥conversationId.txtの形式で、受信データが保存される。



・エクスポートされたデータは、受信メールの<data></data>間のデータが 抽出されたものである。

例)受信メールの添付データ

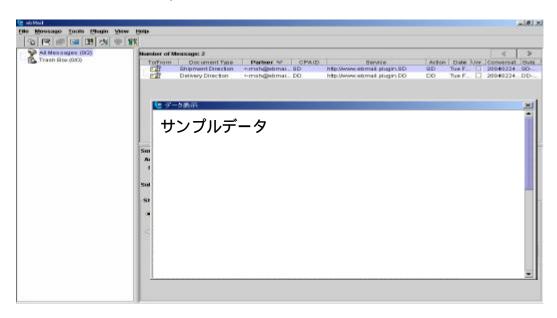


<u>例)エクスポートされたデータ</u>

サンプルデータ

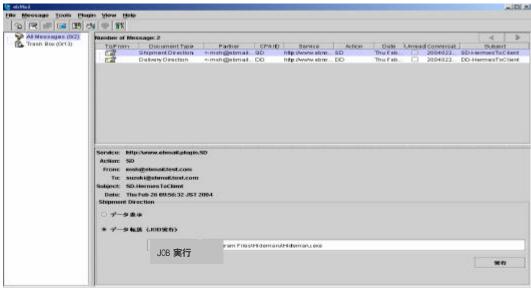
データ表示

- ・出荷(配送)指示データ受信画面にて、「データ表示」ラジオボタンを選択し、実行ボタンを押下する。
- でエクスポートされたデータがデータ表示ダイアログに表示される。2 バイト文字が表示されるためには、送られてきたデータはUTF-8であることが前提となる。



JOB実行

- ・出荷(配送)指示データ受信画面にて、「JOB実行」ラジオボタンを選択する。
- ・JOB選択ボタンにより、起動するプログラムを選択する。または、直接 記述する。その後、実行ボタンを押下する。
- ・ でエクスポートされたデータを第一引数として、指定JOBが起動される。



2.6.4.2. 出荷(配送)指示確認データ送信画面

- ・出荷(配送)指示データに対する回答を行う。 回答するメッセージを選択し、「FollowUp」を実行すると、下記の画面が 表示される。
- ・CPAID、Service、Action、ConversationIdは、受信したメールの情報を引き継ぐ。
- ・出荷(配送)が可能であればAccept、不可能であればRejectを選択する。 選択後、送信ボタンを押下する。



2.6.5. 補足説明

今回、サンプルプラグインを実装するために、Hermes MSH側にもサンプルプログラムを実装した。また、Hermes MSH側へのDB登録も必要であるので、これらについて補則説明をする。

メッセージ送信 (SendServerToClientクラス)

内容: runSend.batの中から、SendServerToClientクラスを起動する。 第六引数のファイルが添付データとして、送信される。 その他の引数は、ebXMLヘッダーを作成するための情報となる。

使用方法:

第一引数 CPA_ID

第二引数 Service

第三引数 Action

第四引数 送信元アドレス

第五引数 送信先アドレス

第六引数 添付ファイル絶対パス

第七引数 メール件名(Subject)

メッセージ受信

内容:受信に関しては、Hermes MSHの標準機能で、プロパティ (msh.propaty.xml)に設定された間隔でメールサーバをポーリン グするようになっている。

また、受信メッセージの物理的なファイルの保存場所も、同様に プロパティに設定されたディレクトリに保存される。

今回は、\hermes\ebxmlms\repository\R0000\

受信ファイルのエクスポート(storeMessageクラス)

内容: Hermesが受信した出荷確認、配送確認メッセージから、True、False を取得する。

サーバ側では、 hermes¥ebxmIms¥repository¥R0000¥ディレクトリをポーリングする機能を作成する必要がある。

このディレクトリに新しいメッセージが作成されたら、 そのファイル 名を第一引数として、storeMessage クラスの store メソットを実行すれば良い。

使用方法:

第一引数 出荷確認、配送確認メッセージファイルの絶対パス

第二引数 出力ディレクトリ

この出力ディレクトリに、受信メッセージのConversationID のディレクトリを作成する。既に存在している場合は、作成しない。

ConversationIDのディレクトリ配下に、受信メッセージの MessageId 名のテキストファイルが作成される。 ConversationId から、どのメッセージに対する Acknowledgement から判断することができる。

Hermes 側データベース準備

Hermes MSH は、データを受信するためには、MSHCONFIG という自身のデータベースへの登録が必要である。ここでは、今回の検証で使用したフリーソフトの HSQLDB について説明する。

- ・ 今回は<ShipmentDirection><DeliverDirection>に対する返信メールを受信するため2件の登録が必要である。
- ・ "HSQLDB のインストールディレクトリ" /demo/runManager.bat を起動する。

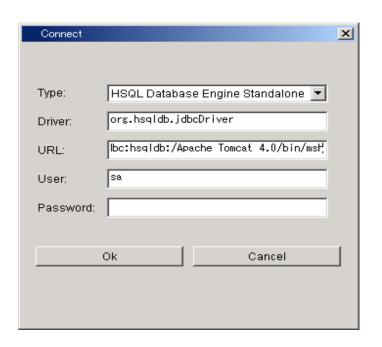
・Type :「HSQL Database Engine Standalone」を選択

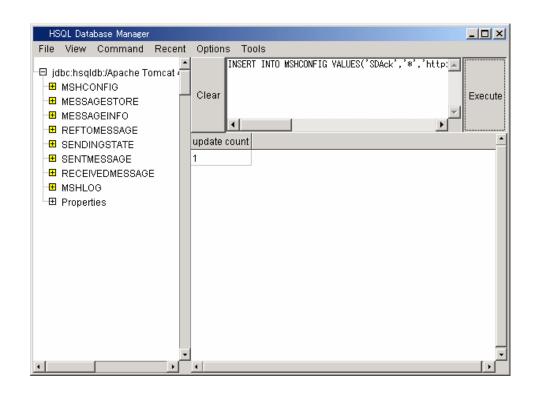
Driver : 「org.hsqldb.jdbcDriver」を選択

URL :「Tomcat のインストールディレクトリ/bin/msh」を設定

User : 「sa」(デフォルト)を設定

Password :無記入(デフォルト) 上記を設定後「OK」ボタンを押下する。





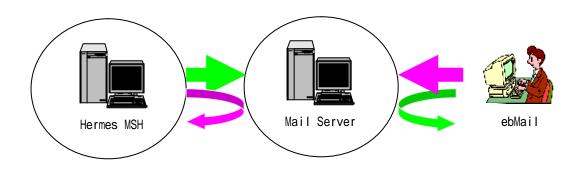
インサート文の値は、下記のとおり。また、 はこの値のみ動作確認済み

<shi< th=""><th colspan="5">ShipmentDirectionAcknowledgment></th></shi<>	ShipmentDirectionAcknowledgment>				
	フィールド名	設定値	備考		
1	C_CPAID	SDAck	ebMailから送信するCPA_IDと同じ		
2	C CONVERSATIONIC	*	ワイルドカード		
3	C SERVICE	http://www.ebmail.plugin.SDAck	ebMailから送信するサービスと同じ		
4	C ACTION	SDAck	ebMailから送信するアクションと同じ		
5		http://10.17.26.200:8081/msh/	msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ		
6	C MESSAGELISTENE	Lck\$2kecdAoTvLiNiqP+5A==	ebMailクラスが参照する値		
7	C TRANSPORTTYPE	mail	SMTPで送信する場合は"mail"固定		
8	C RETRIES	2			
9	C RETRYINTERVAL	30000			
10	C SYNCREPLY	0			
11	C MESSAGEORDER	0			
12	C PERSISTDURATIO	-1			
13	C ENABLED	1			
			•		
<del< th=""><th><u>iveryDirectionAcl</u></th><th></th><th></th></del<>	<u>iveryDirectionAcl</u>				
<de1< th=""><td>フィールド名</td><td>設定値</td><td>備考</td></de1<>	フィールド名	設定値	備考		
1	<u>フィールド名</u> C_CPAID	設定値 DDAck	ebMailから送信するCPA_IDと同じ		
1 2	フィールド名 C_CPAID C_CONVERSATIONIC	設定値 DDAck *	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード		
1	フィールド名 C_CPAID C_CONVERSATIONIC C_SERVICE	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ		
1 2 3 4	フィールド名 C_CPAID C_CONVERSATIONID C_SERVICE C_ACTION	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ		
1 2 3 4 5	フィールド名 C_CPAID C_CONVERSATIONIE C_SERVICE C_ACTION C_TOMSHURL	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ		
1 2 3 4 5 6	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIC C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A==	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		
1 2 3 4 5 6 7	フィールド名 C_CPAID C_CONVERSATIONIC C_SERVICE C_ACTION C_TOMSHURL C_MESSAGELISTENE C_TRANSPORTTYPE	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A==	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ		
1 2 3 4 5 6 7	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIE C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE C TRANSPORTTYPE C RETRIES	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A== mail 2	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		
1 2 3 4 5 6 7 8	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIC C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE C TRANSPORTTYPE C RETRIES C RETRYINTERVAL	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A==	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		
1 2 3 4 5 6 7 8 9	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIC C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE C TRANSPORTTYPE C RETRIES C RETRYINTERVAL C SYNCREPLY	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A== mail 2	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		
1 2 3 4 5 6 7 8 9	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIC C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE C TRANSPORTTYPE C RETRIES C RETRYINTERVAL C SYNCREPLY C MESSAGEORDER	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A== mail 2 30000 0	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		
1 2 3 4 5 6 7 8 9	フィールド名 C CPAID C CONVERSATIONIC C SERVICE C ACTION C TOMSHURL C MESSAGELISTENE C TRANSPORTTYPE C RETRIES C RETRYINTERVAL C SYNCREPLY	設定値 DDAck * http://www.ebmail.plugin.DDAck DDAck http://10.17.26.200:8081/msh/ LckS2kecdAoTvLjNjgP+5A== mail 2 30000 0	ebMailから送信するCPA_IDと同じ ワイルドカード ebMailから送信するサービスと同じ ebMailから送信するアクションと同じ msh.properties.xmlに設定したMSHのURLと同じ ebMailクラスが参照する値		

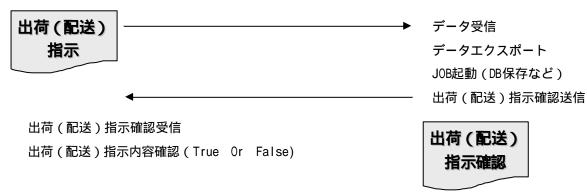
・データベース設定ファイルの破棄

"Tomcat のインストールディレクトリ"/bin/msh.propertiesを削除する。 このファイルを削除しないと MSH サーバが正常に起動されない。

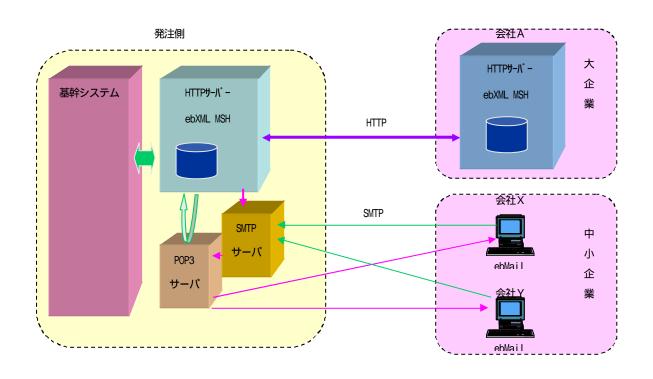
2.6.6. サンプルプラグインのまとめ



出荷(配送)指示送信(SendServerToClient)



2 . 7 . 今後の ebMail を利用した B2B 概念図



(奥付)

禁 無 断 転 載

平成 14年度 経済産業省 受託業務 ebMail 導入ガイド

平成 16年 3月 発行

発行所 財団法人 日本情報処理開発協会

電子商取引推進センター

東京都港区芝公園3丁目5番8号

機械振興会館 3階

TEL: 03 (3436) 7500

印刷所 山陽株式会社

東京都千代田区神田神保町1丁目18番

TEL: 03 (3293) 5411

この資料は再生紙を使用しています。